

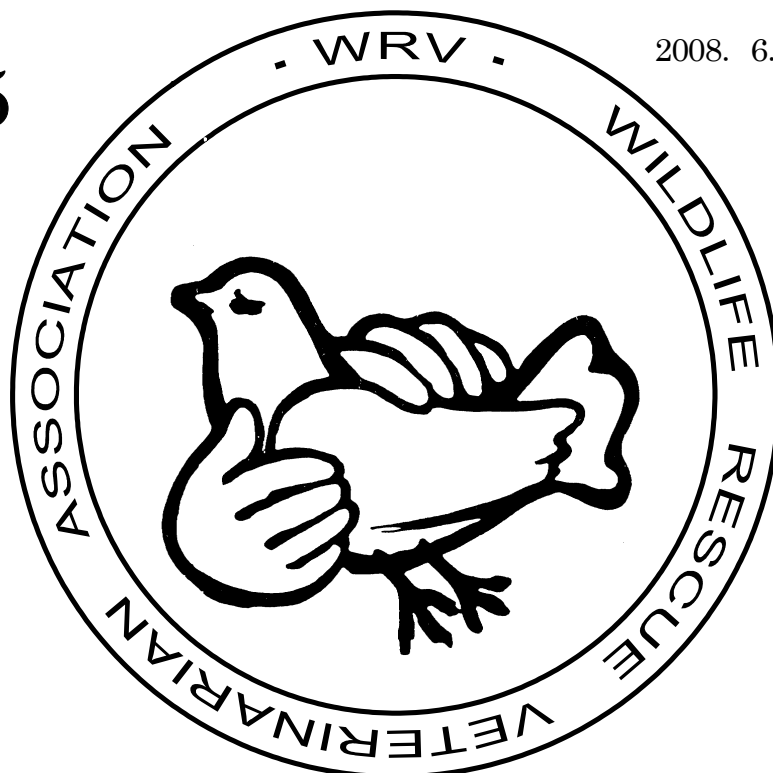
WRV NEWS LETTER

WILDLIFE RESCUE VETERINARIAN ASSOCIATION

特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

No.65

2008. 6. 25 発行



野生動物救護獣医師協会は、保護された傷病野生鳥獣の救護活動を通じて市民の野生鳥獣保護思想の高揚をはかるとともに、地球環境保護思想の定着化を目指しています。そのために、常に世界の情勢を学び、会員相互の連絡、交流を行い、治療、研究および知識の普及をはかり、社会に貢献していくことを目的としています。

No.65 目次

東京都多摩動物公園開園 50 周年記念式典に参加して	2-3
新任理事あいさつ	3-5
油汚染水鳥救護専門家会議 開催案内	6
東京バードフェスティバル 2008 出展報告	7-8
第 62 回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」	8-9
ヒナを拾わないで！！キャンペーン協賛報告	9
鳥インフルエンザについて	10-11
事務局より寄付のお願い	12
事務局より寄付のお礼	12
事務局日誌	12

東京都多摩動物公園開園 50 周年記念式典に参加して

WRV 理事 須田沖夫

2008 年 5 月 1 日、多摩動物公園開園 50 周年記念式典が同園のウォッチングセンター内の動物ホールで開催された。

東京都動物園協会の総裁である常陸宮殿下の到着が遅れ、30 分遅れで式典がスタートした。約 150 名の参加者と多数の報道陣がつめかけた。一般の写真撮影は禁止である。

主催者として菅原秀夫東京都副知事は「動物園は都民の憩いの場であると共に、人と動物関係を学ぶ場であり、さらに希少動物などの繁殖にも取り組み、世界の動物園とも連携して、野生動物の保護に努めている」と挨拶した。

常陸宮殿下は、「多摩動物公園の 50 年間に渡り蓄積した知識と技術を基に、人と野生動物の架け橋となって地球の自然保護活動に、今後も努めて欲しい」とお言葉を述べられた。

来賓は比留間敏夫東京都議会議長が都議会の代表として挨拶をした。地元の馬場弘融日野市長は「当公園は旧七生村が都に積極的に働きかけ、京王電鉄の協力もあって、開園にもってゆき、今日の 50 周年を迎えた。旧日野町は旧七生村と合併し、日野市になり、今年で 50 周年になる。動物公園は日野市民の誇り。市内には工場も多く宅地化が進んだが、動物公園の豊かな緑が残り、百草園、高幡不動、多摩テックや新選組のふるさとなどと共に、市の自慢できる施設の一つである」と挨拶した。

カザフスタン共和国の K・アクルベク特命全権大使は、数年前にユキヒョウを多摩動物公園に送り、今回は多摩からそのユキヒョウの子と日本ザル 10 頭がカザフスタンに送り出されるとのことで、土居利光園長と目録交換が行われた。

アクルベク大使は、「両国の協力・発展に役立つ」と日本語で挨拶した。遠藤安彦(財)日本宝くじ協会理事長は、当公園に「アジアの沼地」の施設建設資金援助を行った。この中には「ウォークインバードケージ」を作り、大きなケージ内に多くの鳥たちを放し飼いにし、毎日事前に応募した 50 名が順次入場し、網越しからではなく直接観察できるようになっている。

記念講演は、成城大学長の清水真澄氏が、動物園の観客としてどのように見ているかを、いろいろな体験を通じて話された。また、東洋美術の研究者としての観点からも話され、今後の動物園のあり方についてのアイデアも述べられた。しかし、時間の関係で十分な話が出来ず残念であった。

50 周年記念祝賀会は場所を移し、モノレールで数駅先の多摩センターの京王プラザホテルで盛大に開催された。

都の建設局公園緑地部長、北村俊文氏の開会の挨拶で始まった。次に常陸宮殿下のお言葉があった。立食のため、話の輪があっちこちに出来、賑やかな場となった。

歴代の動物園長として、中川、増井、斉藤、矢島、菅谷各先生と小宮、土居の現園長が出席し、その人たちと会話してまわった。みな、動物園関係はみな高齢でもお元気であつ

た。

小川友一衆議院議員とは以前からの知り合いで、教育、動物、野生動物、政治について話した。伊藤公介衆議院議員とは式典で挨拶をした。古賀都議、小磯都議とも話し、古賀日野市議とも挨拶をした。

馬場日野市長とは、動物園はじめ七生村との合併が今の日野市の発展につながり、七生地区の緑化観光が市の特徴でもあり、良かったと話した。

黒田環境省自然局参事とは、鳥インフルエンザの問題を心配しており、WRVの活動にも期待されているので、担当関係者との連携を密に取れるように。更に柏木順二関東地方環境事務所所長を紹介された。

野鳥の会専務理事とも東南アジアボルネオ、朝鮮、台湾などの野生動物について意見交換をした。その後、菅原秀夫副都知事と北村俊文都建設局公園緑地部長にも挨拶をした。

私は、多摩動物公園から6kmの地で生まれ育っており、隣は七生村であり、遊び友達の多くが七生の小学校に通っていた。こうした経緯もあり、子供時代にはよく遊びにいったものであった。動物公園では珍しい動物の展示があり、自然の状態が観察でき、特にライオンバスは人気であった。その後、レッサーパンダ、コアラと人気者を導入し、チンパンジーの人工アリ塚、最近ではオランウータンの空中散歩が話題となり、人気を博している。そして、今年は「アジアの沼地」の完成、また、希少種トキの繁殖にも成功している。これらは保全活動とも一致するもので、動物公園の新しい活動であり、生物多様性の持続につながるものである。

多くの人が、多摩動物公園の今後の活動に期待している。みな様も時間を作り、観察に行ってみてはどうでしょうか？

理事就任ご挨拶

WRV 田向健一

このたび平成20年3月1日に開催されました平成20年度WRV総会において、理事に選任されこの度就任いたしました。

そもそも獣医師を志した動機の中に子供の頃、恐らく同年代の先生方と同じく毎週楽しみにしていた「野生の王国」や「わくわく動物ランド」に映し出されていた野生動物の姿があったことは疑う余地ありません。大自然の中で動物達が放つ生命力、躍動感、神秘的な姿に子供ながらにしばれたのを覚えています。

私は大学では牛や豚など人間のために作出された動物を研究対象とし、現在は犬猫を中心とした小動物臨床を行っておりますが、今でも「動物」と言われれば反射的に大自然の中の野生動物を連想してしまうような偏った人間です。

我が国は 1960 年代、先人達の血のにじむような努力の結果、高度経済成長を遂げ先進国の仲間入りを果たしました。しかし、一方欧米諸国と比べ、いまだ人間以外の生命に対する健全な教育理念や政策を構築できるほどの豊かさ余裕さを持ち合わせていないのが現況です。そこには関係機関おける専門家の絶対的な不足も一因にあると思われます。

ひとくちに野生動物といっても非常に多種多様であり、定義すること自体困難と思われますが、身近に生息する哺乳類、鳥類、爬虫両生類において誰かが野生動物のことで困っていたり、野生動物が傷ついていたりしたら生物学、獣医学的見地から微力ながらお手伝いできたらと考えております。若輩者ですが、皆様のご指導ご鞭撻を仰ぎたく宜しくお願い申し上げます。



新任理事あいさつにかえて
ー野生動物リハビリテーターの全国展開へ向けてー

皆川康雄

今年度より改めて理事になりました皆川康雄です。以前にも理事や本部事務局長を務めていましたが、平成 17 年度から神奈川県と協働で行う野生動物リハビリテーター養成・資格認定のため、神奈川支部事務局に専念しておりました。それから 4 年が過ぎ、現在 85 名の野生動物リハビリテーターが県内で活動するようになりました。

こうした中、今年 4 月からは、東京にある東京環境工科専門学校（自然保護系）で、「野生動物リハビリテーション」という科目名で授業を開始しています。

今後、救護活動において、ますます野生動物リハビリテーターの必要性が高まる中で、神奈川だけでなく全国で活躍できるようにすることが、私の任務と考えております。皆様どうぞよろしくお願いします。

以下、私が専門学校側に提出した授業用シラバスです。

近年、生息地を奪われ、多くの野生動物が危機的状況にあるにもかかわらず、交通事故やビルに衝突するなど人為的な原因により、命を落としたり傷つく野生動物が増加している。こうした野生動物を救護し、野生復帰させるとともに、野生動物からの警鐘と受け止

め、人と野生動物が共生できるように関係改善を導くことを野生動物リハビリテーション
と言ひ、これらを実践する人材を野生動物リハビリテーターと呼ぶ。

海外では、すでに公的な資格者として活躍しているが、わが国でもコウノトリの野生復
帰計画に代表されるようにプロフェッショナルな仕事として、その必要性が認識されるよ
うになってきた。実際に神奈川県では 2005 年に野生動物リハビリテーター資格認定制度が
創設された。

こうしたことから、本授業では全国レベルでの資格職となることを念頭におき、野生動
物リハビリテーターとして養成していく。

授業の進行（テーマ：内容）

1. 野生動物リハビリテーションとは何か：

保護から野生復帰へ、失われたものを取り戻すためのアクション

2. なぜ野生動物は傷つくのか：

自然の摂理かそれとも人為的な要因か、日本の野生動物の現状を明らかにする

3. 野生動物リハビリテーターの役割

野生動物自身のリハビリとともに人間との関係性をリハビリすることが使命

4. 救護技術を身につけるⅠ

ファーストエイド：傷病野生動物を見つけたときの対処法（実習を含む）

5. 救護技術を身につけるⅡ

ケア：救護施設における看護と飼育管理（実習を含む）

6. 救護技術を身につけるⅢ

リハビリ：野生復帰のための訓練方法とリリース（実習を含む）

7. 野生動物救護活動の実際

人為的原因のうち多大な被害を及ぼす油流出事故に伴う水鳥救護（実習を含む）

8. 注意すべき野生動物由来感染症

野生動物を扱う上でのリスクを理解し、衛生管理と感染予防の徹底

9. 野生復帰後のケアと生息地保全

野生動物リハビリテーションのゴールとしての生息地保全再生

10. 野生動物代弁者になるための心得

野生動物問題解決に向けた人間に対するリハビリという新たな環境保護活動

11. 環境異変を察知する目を養う

傷病野生動物からのメッセージを受け止めるための環境モニタリング

12. 野生動物が傷つかないための手法

救護原因を究明することにより、事故予防対策や環境改善策への提案

13. 野生動物リハビリテーターの将来像

期待される野生動物リハビリテーター像とは何か、プロとしての可能性を探る

油汚染水鳥救護専門家会議 開催案内

1. 日時：2008年8月23日（土）～24日（日）
2. 場所：野生動物ボランティアセンター 及びその周辺
神奈川県川崎市中原区下新城 2-1-28
3. 対象：油汚染水鳥救護専門家及び環境省水鳥救護担当官
オブザーバー：各都道府県水鳥救護担当部署及び鳥獣保護センター等
4. 内容：
 - 23日（土）
 - 会場：JR 南武線「武蔵中原」駅周辺（詳細未定）
 - 20時～22時：懇親会
 - 24日（日）
 - 会場：野生動物ボランティアセンター
 - 9時：開会
 - 9時15分～10時45分：救護体制（検討会）
 - テーマ：日本における油汚染水鳥救護体制の課題
 - ・報告：最近の日本における油汚染事故発生状況と WRV の対応
 - ・報告：最近の日本における油汚染水鳥救護事例（釧路）
 - ・報告：最近の海外における油汚染水鳥救護事例（韓国）
 - ・討論：
 - 11時～12時：救護技術（講演）
 - テーマ：水鳥洗浄に関する最新情報
 - ・講演：ジョイの洗浄力について（P&G）
※P&G 研究所へ依頼中
 - 12時～13時：昼食
 - 13時～16時：救護技術（実技）
 - テーマ：水鳥洗浄に関するスキルアップ
 - 16時：閉会

以上

○旅費・宿泊費について

旅 費：飛行機、新幹線代は往復分支給します

宿泊費：全額支給します

宿泊場所（ホテル東横イン武蔵中原駅前 TEL:044-752-1045）

ただし、専門家のみへの支給となります（オブザーバー等への支給はございません）

問合せ先：

野生動物ボランティアセンター（馬場、皆川）

TEL：044-777-8243 FAX：044-777-8368

「東京バードフェスティバル 2008」出展報告

WRV事務局 箕輪 多津男

5月17日（土）から18日（日）にかけて、今や恒例となりました「東京バードフェスティバル 2008」が、東京港野鳥公園で開催されました。

今年で5回目を迎える本フェスティバルに、WRVとしては4年連続で参加し、本年も昨年同様、管理棟の隣りのスペースにブースを構えることができました。

今年は天候に恵まれたこともあり、主催者の一つである（社）東京港埠頭公社の発表によりますと、のべ参加人数は両日で約8300名ということで、昨年の6000名に比べ、かなり増えた模様です。当日の印象では、特に土曜日の来客が予想以上にあったようで、親子連れの参加が際立って増えた印象を受けました。ただ、一方で大学生の姿がめっきり減ってしまったことも事実で、今までとは参加者の年齢層がかなり変化してきているようです。同時に、他のイベントと重なってしまったことも一因のようですが、自然保護団体やNPO、あるいは大学生主催によるブースが年々減少してきており、今後の全体的な運営については一考を要するものと思われました。

WRV（東京都支部）のブースでは、立ち寄っていただいた方々に「野鳥救護クイズ」を出題いたしました。クイズは、A4サイズのシート1枚に印刷した簡単な○×式の五問で、その場で解答してもらったところでその都度内容の解説を行いました。そして、その解説シートに数種のパフレットと「ヒナを拾わないで!!」ポスター、そして「野鳥救護クイズ参加賞」（ピンク色の紙に印刷したもの）を添え、それらをWRV神奈川支部から寄せていただいたクリアファイルに入れて、解答いただいた一人一人の方に差し上げました。これらの資料一式は、しめて300セット用意しましたが、二日間ですべて配り終えることができました。

このほか、ブースには昨年と同様、野鳥救護や油汚染事故対応関連のパネルや写真を展示し、数種の冊子類の販売、そして野生動物の相談など、本会の理事および事務局員が協力して対応にあたりました。また、神奈川県のリハビリテーターの方が二名、ボランティアとしてブースの運営を手伝ってくれました。

なお、今年はWRVのブースが「スタンプラリー」のポイント地点に選ばれたため、自動的に多くの来場者が、指定されたスタンプを押すために立ち寄ってくれたこともあり、例年になく、多くの方々とのコミュニケーションをとることができたものと考えております。またクイズの出題等を通して、野鳥の救護に関する普及にも、わずかなりとも貢献できたようですので、今後もこうしたイベントを通じた広報活動の継続を図っていければと意を新たにしている次第です。



アンケート風景

終わりに、今回の出展にあたり準備も含めてご協力いただいた関係各位、あるいは当日、ご多忙中にもかかわらず会場にお越しいただいた多くの方々に、改めて感謝の意を表したいと思います。

<当日の参加者（ブース運営）>

野村、新妻、馬場（ご一家）、皆川、吉見、梶山、箕輪（以上WRV）

三橋さん、佐々木さん（以上神奈川県リハビリテーター）



全国野鳥保護のつどい

WRV 会長 新妻 勲夫

平成 20 年 5 月 11 日（日）に常陸宮殿下、同妃殿下をお迎えして、第 62 回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」が、新宿住友ホールで約 300 名の参加で開催された。

主催者として鴨下一郎環境大臣、森幸男日本鳥類保護連盟会長が挨拶された。

常陸宮殿下、同妃殿下を拍手でお迎えし、お言葉を賜いました。

「野鳥の飛来する我が国の自然環境を国民の温かい心で守って欲しい。

本日の皆の心を一つにして、多くの成果を上げてもらいたい。」

との、殿下のお言葉の後に表彰式が行われました。

野生生物保護功労者

財団法人日本鳥類保護連盟総裁賞

環境大臣賞

文部科学大臣奨励賞

林野庁長官感謝状

財団法人日本鳥類保護連盟会長賞

環境省自然環境局長賞



財団法人日本鳥類保護連盟
総裁賞受賞ポスター

北は北海道から南は沖縄まで表彰された方々は、地域の重要な野鳥であるガン・カモについて他に先駆けて一斉調査を実施し、野鳥保護のための先駆的な活動に尽力された。

ラムサール条約登録湿地である伊豆沼内沼に生息する水鳥のための生息環境保全の推進など野生鳥類保護のために多大なる貢献をされた。

自ら考案した発砲スチロール製バードカービングの作成、実演指導等を行い、愛鳥思想の普及啓発に大きく貢献した。等、ご尽力された方々であります。

野生生物保護活動発表

- ・沖縄県国頭村立安田小学校「ヤンバルクイナの保護活動」

- ・神奈川県秦野市立鶴巻小学校「鶴巻の野鳥と友達」

スライドを使っての解説は、我々も大いに参考になった事が多く感心した。

特に、ヤンバルクイナの飼育に対する努力と姿勢に感銘を受けた。

愛鳥宣言を東京都世田谷区立船橋小学校の生徒さんで元気に読み上げられ

盛会裏に式典を終了した。

式典終了後、時間をおいて場所を住友スカイルームに移して愛鳥パーティーが、106 名の参加で開催された。式典同様、主催者の挨拶があり、皆の拍手で常陸宮両殿下をお迎えし、お祝いのお言葉を賜いました。

河野洋平愛鳥百人委員会会長の音頭で乾杯をして、懇親会に入った。

島根県より河内先生が、3 人の行政の方とお見えになっていたのも、懐かしくお声がけして、親しく現東京の野鳥救護対策で島根県での対策との違いと方法等について話をした。

また、WRV 野生傷病鳥獣救護カルテへの協力も再度お願いすることが出来ました。

殿下に拝謁し、WRV の活動内容として、韓国での油流失事故に対して、救護そして、技術指導を行ってきたことを、お話しさせて頂きました。

「お互いに協力することは、良いことと思います。」とお言葉を頂戴しました。

鴨下環境大臣にお会いして、殿下にお話したことに加えて、鳥インフルエンザ特に、秋田県、青森県、北海道での高病原性ウイルスについての調査にあたって北里大学の人畜共通感染症研究室において協力を依頼している旨、お伝えして、ご指導とご協力を要望しました。他に、環境省関係では、黒田大三郎環境省大臣官房審議官、星野一昭野生生物課長の方々ともお話し合いを持つことが出来、東京都民の環境行政を守る上においても鳥獣保護センターの確保が必要不可欠と思われる旨等の存念をぶつけることが出来ました。そして

また、報道関係、作家、タレントの方々とも野鳥の行動と感染症についての話をすることが出来たことは、大変有意義に思います。

日本の未来の環境政策は、野生動物にソッポを向かれない国づくりでならないと示唆されます。

◆平成20年度「ヒナを拾わないで!! キャンペーン」について◆

WRV事務局 箕輪 多津男

WRVでは平成20年度も引き続き、(財)日本野鳥の会および(財)日本鳥類保護連盟との共催で「ヒナを拾わないで!! キャンペーン」に参画いたしております。

本年度のキャンペーンに、当協会あてにご協賛いただきました団体(または企業)は、以下のとおりです。ポスターにも既に、それぞれのご芳名を掲載させていただきましたが、これまで以上に多大なるお力添えを賜りましたことに、改めて心より厚く御礼申し上げます。

<ヒナを拾わないでキャンペーン／協賛団体リスト> (42団体：五十音順)

社団法人 愛知県獣医師会
イソップ薬品 株式会社
社団法人 京都府獣医師会
株式会社 キリカン洋行
株式会社 サンギョウ
社団法人 静岡県獣医師会
大日本住友製薬 株式会社
社団法人 千葉県獣医師会
株式会社 東京メニックス
社団法人 栃木県獣医師会
社団法人 長崎県獣医師会
社団法人 日本獣医師会
日本全薬工業 株式会社
バイエル薬品 株式会社
社団法人 福岡県獣医師会
社団法人 北海道獣医師会
武蔵村山ペットメモリアルパーク
メリアル・ジャパン 株式会社
野生動物ボランティアセンター
学校法人 ヤマザキ学園
株式会社 レオニス

社団法人 秋田県獣医師会
社団法人 岐阜県獣医師会
株式会社 共立商会
株式会社 グッドウィル
宗教法人 慈恵院 附属多磨犬猫霊園
NPO 法人 自然環境アカデミー
高尾霊園犬猫墓地
社団法人 東京都獣医師会
動植物観察研究会
財団法人 鳥取県動物臨床医学研究所
社団法人 名古屋市獣医師会
日本小動物獣医師会
社団法人 日本動物病院福祉協会
馬場綜合動物病院
文永堂出版 株式会社
社団法人 三重県獣医師会
ムナテックス 株式会社
森久保薬品 株式会社
野生動物リハビリテーター協会
株式会社 吉元
社団法人 和歌山県獣医師会

本キャンペーンも、年を追うごとに広がりを見せ、10万枚を超えるポスターの配布と共に、世の中の多くの方々にその意義を認知していただけるようになってまいりました。

会員の皆様には、前号のニューズレターとともにポスターを送らせていただきましたが、本キャンペーンの主旨をお汲み取りいただき、その普及のために今後ともご協力いただければ幸いに存じます。

野鳥の繁殖期に当たっておりますこの時期に、それぞれの雛の健やかな成長を祈りつつ、これからも野鳥の声が決して絶えることのないよう、身近な自然環境の保全に向けて、皆様と共に歩み続けていければと考えております。

なおWRVでは、傷病鳥獣の救護活動につきましても、より一層の尽力をしてまいる所存でおりますので、併せて皆様のご協力をお願い申し上げます。

傷病野鳥救護における鳥インフルエンザウイルス対策

WRV 須田沖夫

この数年、冬から春にかけて我が国でも飼い鳥や野鳥など鳥類に、鳥インフルエンザが散発的に発生し話題になっている。この病気が哺乳類のインフルエンザに関与し、新たなヒトへの伝染病に変化し、ヒトに大きな被害を及ぼすのではないかと関係者はじめ多くの人が心配している。

我々獣医師、特に野生動物救護活動をしているWRVの会員は、鳥インフルエンザに感染している野鳥を診察する機会が、今後あるかと思われるので、その対策を考えておく必要がある。それには鳥インフルエンザを知っておくことが重要である。

インフルエンザAウイルスの感染によっておこる、鳥類の全身性疾病である、ウイルス株の型によって、呼吸器、消化器そして神経症状と病状や致死率は軽度から重度まで様々である。また、鳥種によっても感受性に変化がみられ、不顕性感染も多い。

急性で罹患率や致死率が高い場合、家禽ペストと古くは言われ現在は高病原性鳥インフルエンザと云われている。強毒ウイルスはHAが宿主の細胞に普遍的に存在する蛋白分解酵素によって開裂活性化し全身で増殖するので重症化する。H5またはH7亜種型のヘマグルチニン(HA)をもつが、必ずしも強毒とは限らない。

家禽ペストは高病原性鳥インフルエンザ(鶏、アヒル、ウズラ)と同義語であり、法定家畜伝染病である。それ以外の鳥インフルエンザ(鶏、七面鳥、アヒル、ウズラ)は届出家畜伝染病であるので、本病の疑いのあるときは早急に行政(都道府県知事、家畜保健所)に届け、その指示にしたがうこと。野鳥が集団死亡したり、保護された場合、家畜保健所等が感染を疑って検査をすることになっている。

日本での野鳥の集団保護や死亡例

1993年2月	北海道苫小牧沖のクロカモなど油汚染鳥
1997年1月	日本海ナホトカ号ウミスズメ、ウトウの油汚染による大量死 東京国立市でのムクドリのパラカンサ食死 長野県ヒレンジャクのパラカンサ食死
2004年6～8月	関東から東海など異常気象によるオオミズナギドリの大量死
2004年2月、2005年2月	長崎県対馬での油汚染によるオオハムが数十羽死亡
2004年8月	東京、大阪で水鳥のボツリヌス菌による集団保護・死
2005年10月	茨城県油汚染によるクロガモが20羽死亡
2006年2月	北海道札幌などサルモネラ感染によるスズメの大量死
2008年5月	関東(東京周辺)でミズナギドリなど、低気圧に飛ばされ100羽以上保護

これらはみな、高病原性鳥インフルエンザウイルスは関与していないと思われたので、確認のためのウイルス検査はしていない。

しかし、感染力の強い病原体をもった野鳥の診察にあたる可能性もあるので、保護や死体を収容する場合は素手で直接触らないようにしてダンボール箱にいれ、死体においては

ビニール袋でつかみ、袋をとじて持ち帰る。院内での診療では最低でも手袋、ゴーグル、マスク等を着用し、出来ればガウンを用いるのが良い。使用したものは廃棄か消毒をする。

野鳥の保護・治療は、市民や開業獣医師は個々の生命を重視し、動物愛護を前面に出して対応する場合が多いので、感染症や中毒が広がり生態系に悪い影響を及ぼすこともある。初期の診断は重要であり、特に感染症や中毒についてはその個体を犠牲にしても原因を確認して、その対策を早期にすることが野鳥の群れや種を守り、生物多様性を守ることになる。国、行政側から開業獣医師に教育と対策費を定期的かつ長期的に確保して行かないと、傷病野生動物の保護・診療する獣医師はますます減少してゆき、生物多様性の保全が出来なくなる可能性がある。

2008 年春の高病原性鳥インフルエンザウイルスが青森県や北海道に発生し、白鳥が亡くなっている。この発症死亡白鳥のウイルスの遺伝子は青森と北海道の例はほぼ同一であり、感染源は同一と考えられている。だが、そのウイルスがどこから日本に侵入し、どこで白鳥と接触したかは不明である。日本各地の他、韓国、中国、ロシアそして東南アジアとの高病原性鳥インフルエンザウイルスの「H5N1 型」の遺伝子分析結果を情報公開して、感染経路を確認することが大切である。その後の調査で韓国の発症個体のウイルスに近いものであり韓国を経由して感染した可能性も高い。外国でも白鳥の感染例が多い。

今年の秋白鳥など水鳥が高病原性鳥インフルエンザを日本に持ち込まないか心配である。

CDC の報告では鳥インフルエンザのいくつかの H 型でのヒトへの感染が確認されている。今年、国立感染研究所が鳥インフルエンザの H5N1 型を簡単に検査する方法を開発したので、これを野鳥の野外調査に利用ができると早期発見に役立つものと考えられる。それには環境省(野鳥の定期検査)、農水省(家禽の予防)、厚労省(ヒトの予防治療法の確立)など、共通認識を持って国内はもとより諸外国と協力研究・調査・調整をする必要がある。野鳥や家禽等を診察する獣医師にも優先的にワクチン接種をしないと、調査・研究に支障がおこり、ヒトへの対策が遅れることも考えられる。

日本での外来種問題が大きな社会問題にしているのも、獣医師や専門家が動物愛護と生物多様性保全との総合的長期的対応を欠いている一面があると思われる。また、緊急対策においての優先順位の判断など獣医師も重要な立場にいることを念頭に、鳥インフルエンザ対応を十分に考えておくことが必要と思われる。

【人災による傷病野生鳥獣の救護活動募金】のお願い

WRV では、傷病野生鳥獣救護活動を迅速に実行するため、人員の派遣費および資材の調達
の募金活動を行っています。ご協力をお願いいたします。(救護活動用基金)

郵便局加入者番号：00190-5-722368

加入者名義：WRV 人災募金

事務局より寄付のお礼

寄付ご協力者（敬称略）2008年3月1日～2008年5月31日

<一般>

4. 7 中村富士子 10,000
5. 18 TBF 会場募金箱 2,505

<人災募金>

4. 1 木村睦子 20,000
4. 4 アミ動物病院(募金箱) 15,249

事務局日誌 2008.3.26～2008.6.25

―― 3月――

25: ヒナを拾わないでキャンペーンポスター納品

26: 野鳥等の油汚染救護マニュアルの要点納品

26: ニュースレターNo.64 発行

―― 4月――

9: 都道府県鳥獣保護課宛て鳥獣保護アンケート送付

20: 第4回 WRV 理事会

30: P&G 打ち合わせ 対応: 野村、須田、佐藤

―― 5月――

1: 多摩動物園創立 50 周年記念パーティー 対応: 須田

11: 第 62 回愛鳥週間のつどい 対応: 新妻

17、18: 東京バードフェスティバル 2008 対応: 新妻、野村、皆川

19: 第 5 回 WRV 理事会

―― 6月――

2: 正会員宛て鉛中毒事故実態調査アンケート送付

4: 山際大志郎衆議院議員(獣医師)後援会 対応: 新妻、馬場

15: ふっさ環境フェスティバル 対応: 野村、箕輪

17: 第 6 回 WRV 理事会

25: ニュースレターNo.65 発行

カルテ提出のお願い

WRV は 1991 年よりカルテ集計をしております。提出会員は例年 30～40%程度です。傷病野生動物を診療した正会員の皆様は可能な範囲で WRV のカルテに記入し、事務局宛てに提出をお願いいたします。カルテの分析で多くの事が解ってきました。

本年は都道府県にもカルテ集計の協力をお願いしております。

日々の診察にお忙しい事とは思いますが、早急にカルテの提出をお願いいたします。

.....
野生動物救護獣医師協会 (ホームページ) <http://www.wrvj.org/> (E-mail) kyugo@wrvj.org

NEWS LETTER No. 65 2008. 6.25 発行

発行: 特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

事務局: 〒190-0013 東京都立川市富士見町 1-23-16 富士パークビル 302

TEL: 042-529-1279 FAX: 042-526-2556

発行人: 新妻 勲夫 編集文責: 須田 沖夫

.....